



令和3年度 学友会が始動します！

学友会執行部会長 戸塚 怜菜（放射線技術科学科 3年）

令和3年度の学友会執行部 会長を務めることとなりました、放射線技術科学科3年の戸塚怜菜と申します。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、登校の自粛やオンラインによる授業が多くあり、これに伴って、大学行事の中止・延期やクラブ活動の自粛・学友会活動の停止などにより、大学での学生生活や大学生ならではの楽しさを充分に感じる事ができず、残念で悔しい思いをしました。

今年度に入っても、今なお感染症の脅威は衰えず、様々なことへの自粛を強いられる生活は変わりませんが、このような状況下だからこそ例年以上の工夫や安全対策を十分に行った上で、学生同士の交流が深められるような取り組みを行っていきたくと考えています。さらに、他の委員会や各種学生団体とも互いに協力し合いながら、支えてくださる方達への感謝を忘れず、この大学をさらに素敵にできるよう、私達から元気を届けていきたいと思しますので、大学祭や学友会行事の際には皆さんの積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

クラブ・サークル運営委員会委員長 横山 瑛大（放射線技術科学科 2年）

フットサル部 部長の横山瑛大です。この度、クラブ・サークル運営委員会 委員長を務めさせていただきこととなりました。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルスの影響で課外活動の自粛が続いています。

このような中でも、学友会執行部との協働により、各クラブ・サークルに紹介動画の作成を依頼し、5月上旬にはYoutubeによる配信という形で、新入生に対し「どのようなクラブ・サークルがあるのか」や、「それぞれの活動内容」を紹介することができました。

新型コロナウイルス感染症が落ち着いて、平穏な日常が戻ってきた際には沢山の仲間と一緒に活動できればと考えているので、是非皆さんの入部をお待ちしています。

多くの大会や行事が中止となり、クラブ・サークル活動にも制限がかかっている状況ではありますが、皆さんが課外活動を通じて学年や学科の垣根を超え、沢山の出会いや交流の機会が増えるよう、また、クラブ・サークルに所属する学生一人ひとりが安心し、充実した活動を行えるよう、力を尽くしていきたいと思っています。まだまだ未熟で至らない点も多々あるかとは思いますが、精一杯頑張りますので1年間よろしくお願いします。

<学生課>

令和3年度 学友会執行部役員

会 長	戸塚 怜菜 (放射線技術科学科 3年)
副会長	長谷川朋貴 (薬学科 3年)
書 記	木下 知樹 (放射線技術科学科 3年)
会 計	加藤 紗英 (放射線技術科学科 3年)
会計監査	倉谷 隼汰 (リハビリテーション学科 3年)
大学祭 実行委員長	菊地 美智 (放射線技術科学科 3年)

救急救命学科開設の記者発表を実施

2022年4月に開設する保健衛生学部「救急救命学科」の記者発表を7月7日(水)に行い、高木純一理事長、豊田長康学長、鈴木哲司救急救命学科長(就任予定)が出席しました。本学科は三重県で初の救急救命士養成校となります。

救急救命士は、1991年に制定された国家資格であり、医師の指示のもと救急車内で医療行為が許されるようになってから日本の救命率が格段に向上しました。

また、厚生労働省においては医師の働き方改革の一環として、医療機関での職域拡大が議論され、事故現場や救急車内に限られる救急救命士の活動について病院内でも認める方針が固まりました。

救急救命学科ではこうした背景をもとに、今後医療機関で需要が高まると予想される救急救命士を養成することを目的としています。4年間の充実した学びで、病院前救急医学に関する知識および救急・災害医学を深く理解し、人の痛みや苦しみに目を向けられる人材を養成します。医療現場はもちろんのこと、大規模災害でも活躍できる救急救命士を輩出します。

＜企画広報課＞



SUMSヘルシーキッチンスタジオ オープニングセレモニーを開催

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 教授 浦田 繁

本学東洋医学研究所1階に設置された「SUMSヘルシーキッチンスタジオ」のオープニングセレモニーを6月27日(日)に開催しました。

本施設は、東洋医学(漢方薬・鍼灸・薬膳など)と西洋医学の融合を目指した研究機関である東洋医学研究所内に配置され、学生や地域の皆様が薬膳は元より食養生や生活指導を学ぶ場として開設されました。

今回は、オープニングセレモニーとして村林新吾先生(元相可高等学校食物調理科教諭、本学客員教授、日本薬膳学会顧問)

と西岡宏起先生(相可高等学校食物調理科教諭)による「梅雨と夏の薬膳料理を美味しく見せる盛り付け」の実演をご披露

いただきました。基本となる出汁の取り方をはじめ、季節の食材を使って4品を調理されました。また、見た目にも美味しく食べてもらえるよう盛り付けの基本についても解説され、参加者は真剣な表情で聞き入っていました。

今後は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、薬膳や調理を皆様と研鑽する場として活用していく予定です。



実演中の西岡先生と村林先生(右)



白和え・鶏と冬瓜のお吸い物・白粥
湯葉あんかけ・鰹だしのわらび餅
(時計回りに)

桜の森病院が第40回三重県建築賞一般部門で入選を受賞

令和3年4月1日に開院した「桜の森病院」の建物が、第40回三重県建築賞一般部門での審査の結果、「入選」を受賞しました。

全国初となる大学附属の完全独立型緩和ケア病院として、安らぎのある「住まい」を感じられる緩和ケア病院の実現をめざし、患者様が安心して過ごせる良質な環境づくりをコンセプトに計画、建設を実施しました。

開院後においては、入院患者様のご家族からも施設環境並びにスタッフの対応等で高い評価をいただいています。

※三重県建築賞とは「三重県内の地域社会の発展に寄与した優秀な建築作品に対して表彰する」もので、受賞作品の内容については一般社団法人三重県建設業協会のホームページに掲載されています。

https://www.miekenkyo.or.jp/award_detail_no40.php



＜管財課・桜の森病院＞

医療健康データサイエンス学科開設記念シンポジウムを開催

医用工学部 医療健康データサイエンス学科長 鶴岡 信治

医療健康データサイエンス学科が、医用情報工学科を改組し、2021年4月に開設されました。医療健康データサイエンス学科開設記念シンポジウムを5月29日(土)13:30から白子キャンパス6号館で開催しました。当初、ハイブリッドで開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染防止のため、一般視聴はオンラインのみとなりました。参加者数は270名程度で、本学の学生を始め、高校生・高校教員、一般企業、医療機関、行政機関に勤務する社会人まで幅広い方々が参加されました。

シンポジウムのテーマは「医療健康科学×データサイエンス⇒イノベーション」で、以下のプログラムにより、データサイエンスへの期待と将来に関して講演されました。

1. 主催者挨拶：理事長 高木純一、学長 豊田長康
2. 来賓挨拶：三重県知事 鈴木英敬（ビデオレター）
3. 講演：

- 1) データに基づく医療（EBM）の有用性と将来

三重大学学長 伊藤正明（前三重大学医学部附属病院長）

- 2) デジタル社会の到来とヘルスケア

三重県最高デジタル責任者（CDO）兼デジタル社会推進局長 田中淳一（オンライン）

- 3) データを活用する新しい地域社会

株式会社三重電子計算センター 代表取締役社長 小柴眞治

- 4) 新学科「医療健康データサイエンス学科」の目指す姿

医療健康データサイエンス学科 学科長・教授 鶴岡信治

いずれの講師もそれぞれの立場から、実際のデータに基づく医療・政策・経営判断の重要性と将来展望を具体的なデータを基に講演されました。データサイエンスは、医療の分野だけでなく、幅広い分野で求められており、卒業後は幅広い分野での活躍が期待されていることをお聞きしました。



鶴岡学科長の講演の様子

文部科学省「地域総活躍社会のための慢性疼痛医療者育成」事業報告

慢性疼痛教育委員長・医用工学部 臨床工学科長 丸山 淳子

文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の一環である三重大と本学との5年間の合同プロジェクト「地域総活躍社会のための慢性疼痛医療者育成事業」が昨年度で終了しました。これまでの5年間の事業のまとめをご報告いたします。

本事業は専門教育に入る前の早い段階で三重大医学部学生といっしょに多職種連携、チーム医療について学び、将来の地域の医療系ネットワーク形成につなげようという目的で始まりました。両大学の多職種の教員が講義（科目名：チーム医療Ⅰ）と集中講義（ワークショップ形式、以下WS）（科目名：チーム医療Ⅱ）を担当しました。初年度には2大学で同時に受講できる設備が両大学で整えられ、翌年の平成29年度にWSをスタートしました。過去5年間の2大学の履修者数を（表1）に示します。本大学では当初は、チーム医療Ⅰが一部の学科による必修科目でしたが、令和2年度より底力教育に組み込まれて名称が変更されました。選択科目となり履修人数は少なくなりましたが全学科学学生が自由に履修できるようになりました。2科目を修了した学生には豊田学長から一人ひとりにコース修了証が手渡され、その人数は合計73人となりました（表2）。

本事業は、多くの関係者の熱意と努力により2大学の規則の違いやスケジュールの違いなどさまざまなことを乗り越えて実現しました。5年間にわたり統括いただきました豊田学長、多大な貢献をしていただきました教職員の皆様

表1 2大学における補助事業対象授業履修者数

科目名	チーム医療Ⅰ [1年生後期 必修・講義]		チーム医療Ⅱ [2年生前期 選択・WS]	
	本学	三重大	本学	三重大
平成29(2017)年度	386	65	21	28
平成30(2018)年度	403	45	27	18
平成31・令和元(2019)年度	443	88	26	26
科目名(変更後)	慢性疼痛で学ぶチーム医療(基礎)[選択・講義]		慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)[選択・WS]	
令和2(2020)年度	271	49	43	17
合計	1503	247	117	89

表2 鈴鹿医療科学大学におけるコース修了者数

年度	修了者数	修了者学科内訳
平成30(2018)年度	21	HN1、HP4、HA5、PP7、NN4
平成31年・令和元(2019)年度	19	HN①2、HN②9、HP2、HA2、PP3、NN1
令和2(2020)年度	33	HN①3、HN②2、HW②3、HT1、HA2、PP22
合計	73	

サイボス 第77回日本放射線技術学会学術大会CyPos賞を受賞

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 松浦 佳苗

令和3年4月15日(木)～18日(日)に開催された第77回日本放射線技術学会総会学術大会において、CyPos賞 (Sliver Award) を受賞しました。発表演題は「コードワイヤを用いた逐次近似再構成法とディープラーニングベース再構成法によるCT画像の解像度測定」です。近年のX線CT撮影で用いられる逐次近似再構成技術やDeep learning再構成技術は、画像のノイズを低減しつつ画像の解像度を保持するX線CTの画像再構成法であり、本研究はこれらの画像再構成法で構築された画像の画質を評価するための新しい手法について提案したものです。X線CT撮影では、X線被ばくは可能な限り少なくしつつ、診断に寄与する良質な画像を提供することが求められるため、撮影画像の画質評価は視覚評価とのずれがない物理評価が行えることが理想です。本研究で提案した新しい手法が、今後のX線CT検査技術の発展に少しでも寄与できればと考えています。



今回、このような賞を頂いたことを励みに、今後も積極的に研究活動を進めて行きたいと考えています。また、この研究活動の成果を、将来診療放射線技師となる学生の皆さんの教育に還元できるよう、今後とも精進していきたいと思っています。最後に共同研究者の皆様をはじめ、研究に携わって頂いた方々、また、日々サポートを頂いている多くの皆様に厚く感謝申し上げます。

教育内容の見直し

保健衛生学部 医療福祉学科長・医療福祉学専攻長 藤原 芳朗

令和3年度入学生より、社会福祉士・精神保健福祉士の教育内容の見直しが始まり、新しいカリキュラムが順次導入されることとなりました。

今回10年ぶりの改正の背景には、社会福祉士・精神保健福祉士を取り巻く情勢の大きな変容があります。これらの有資格者の役割の拡大と就労状況の広がり関係しています。病院・診療所、福祉（高齢・障害・児童の事業所）、保健（行政）から教育（スクールソーシャルワーカー）、司法（矯正・更生保護施設）、産業・労働（ハローワーク・一般企業）といった方面まで幅広く活躍の裾野を広げてきています。

以上の状況から、社会福祉士・精神保健福祉士の実践能力を高める必要があり、現行カリキュラムの見直しをし、ソーシャルワーク機能を高めることにより、地域共生社会の実現に向けてこれを推進できる人材育成が求められることとなりました。

具体的には、社会福祉士養成においては総時間数に変化はないものの、旧の「相談援助実習」が「ソーシャルワーク実習」と名称を変え、時間数も180時間から240時間へ、また、従来1か所の実習機関であったものが種別の異なる2タイプでの実習が義務付けられました。精神保健福祉士養成にあっても「ソーシャルワーク演習」が30時間プラスとなりました。ともあれ、複雑多様化する福祉ニーズに的確に対応できる人材育成に努めてまいります。

薬学セミナーに参加してみませんか？

薬学部 薬学科 教授 米田 誠治

今年度4月より「薬学セミナー」を白子キャンパスにて、毎月（木曜1限）開催しています。薬学セミナーは薬学科の教員が自身の研究成果を発表し、互いの意見を交換する場なのですが、本学全学科の学生の皆さんの参加も歓迎しています。研究発表という言葉を聞くと、自分とは少し遠いものを感じる方も多かもしれません。しかし、大学の教員が行う研究発表には、皆さんの先輩方が頑張って収めた成果が多分に含まれています。自分達もこれから同様のことを卒業研究として行うと思うと、少し身近に感じられるでしょうか。

私自身は、薬学3年次生の時に参加したセミナーがきっかけで研究を始め、そこから成績が驚くほど伸びました。「驚くほど」伸びたのはそれまでの成績があまりにも悪かったからです。ぼんやりしていた知識が次々と繋がりはじめたのを覚えています。結局、研究が自身の勉強に臨む姿勢から生活習慣まで変えてくれました。「積極的に勉強に取り組めていない」または「講義を聴いていても良くわからない」という人は、研究に触れることで大学生活に何らかの変化が生まれるかもしれません。内容が理解できるかどうかは別にして、薬学セミナーで科学に浸ってみませんか？

医療人底力実践 I（学科プログラム）の取り組み

先輩や看護職との対話を通して

看護学部 看護学科 教授 江口 秀子

医療人底力実践 I（学科プログラム）は、医療・福祉のスペシャリストを育てるという本学の教育理念に基づき、「自職種理解」「キャリア形成・人生設計」「職業意識」「モチベーションの習得」「学びや体験の記述発表」という共通目標のもと、それぞれの学科の特色を踏まえながら取り組んでいます。

看護学科では看護の歴史や役割、本学で看護を学ぶことの意義についての説明後に、本学科4年生から大学での過ごし方（学修や実習、キャンパスライフ等）についてプレゼンテーションを受け、直接先輩と交流する場を設けています。また、本学の卒業生をはじめ、保健師や助産師、訪問看護師など実習施設から多くの看護職の方に来ていただき、看護職の活躍の場の広さについて最初に知ってもらいます。さらに認定看護師・専門看護師・看護管理者からのプレゼンテーションによって看護職としてのキャリア形成をイメージする機会としています。このように先輩や看護職の方々との交流の機会を設けることによって学生からは、「先輩たちの話を聞いて〇〇という目標を立てた」「看護師として患者さんに寄り添うことの重要性を学んだ」という声が聞かれました。

看護学科では共通目標5項目に加え「コミュニケーション能力」「ストレス対処能力」という目標を追加しています。毎回授業の中にグループワークを取り入れて発表の機会を設けることによって、他者に伝えることの難しさやいろいろなものの見方・考え方があることを体験しています。またストレスとその対処法を知ることで自身のストレス対処能力を高め、新しい環境に適応していくことを支援しています。「自分なりのストレス解消法を書き出して部屋に張り出した」など具体的な行動がレポートの中にみられました。

臨床検査学専攻卒業生の講義を聴講して

保健衛生学部 医療栄養学科 准教授 金山 和樹

5月20日(木)の医療人底力実践 I 学科プログラムで外部講師として2名の臨床検査学専攻卒業生に來校していただき、新1年生に講義を行っていただきました。この講義は、新1年生が卒業生との交流を深める目的とともに、臨床検査技師として活躍する先輩たちの姿を見て資格取得へのモチベーションがさらに高まることを期待し実施しています。今年で4回目となりますが、本年度は1期生の平尾早希先生（鈴鹿回生病院）と澤弘視先生（近畿健康管理センター）に現在行っている業務内容について詳細にお話をさせていただきました。特に澤先生はセンターで予防医学に携わっているため、病院以外での臨床検査技師の役割についてお話が聞けたのは学生にとって大きな収穫であったことと思います。また、講義をしている卒業生を見て立派に成長されたことを強く感じました。卒業生が母校で学生を指導し、指導された学生が卒業後、また母校で指導する、このサイクルをこれからもずっと継続し臨床検査業界の中で鈴鹿医療科学大学の太いネットワークを築き上げていってほしいと思います。

＜臨床検査学専攻＞

ヨモギを採集して、はじめてのお灸作り

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助教 宮脇 太朗

皆さん、お灸の正体がヨモギの葉の裏面にある白い毛を集めたものであることをご存知でしょうか？実際には、乾燥させたヨモギを手に取り両手で揉みつぶし、緑の葉を落とし、手のひらに残ったものがお灸です。本格的なものは様々な機器を使いますが、実は簡単に作れるんですよ。

そこで、鍼灸サイエンス学科1年生は、医療人底力実践 I（学科プログラム）の到達目標「自職種理解」として、ヨモギからお灸を作り、灸治療の体験をしています。その一環として、去る4月22日(木)、安全に配慮した上で本学白子キャンパスに自生するヨモギを採集しました。コロナ禍で最小限の会話しかできず静かではあるものの、クラスメイト同士楽しそうに、協力しながら採集している姿は微笑ましく思えました。また、採集の仕方にコツをつかみ、その方法をクラスメイトに伝えている姿は頼もしくもありました。

ヨモギからお灸が作られること、ヨモギが餅やてんぷらなど食用に用いられていること、艾葉（がいよう）という漢方薬として使われていることなど、ヨモギを実際に手に取り観察することで、理解がより深まったと思います。

今回の体験を機に、治療で用いるお灸への愛着がわき、鍼灸師の職種理解がより深まることを切に願っています。



ヨモギ採集の様子

採集したヨモギ

令和2年度の臨地校外実習報告会を開催

保健衛生学部 医療栄養学科 管理栄養学専攻長 太田 伸生

令和2年度の臨地校外実習（給食経営管理論および臨床栄養学）の報告会を令和3年5月20日（木）と27日（木）に開催しました。昨年度来の新型コロナウイルス感染症流行は私たちの臨地校外実習の実施に大きな影響があり、昨年度は4年生による実習報告会の開催を見送らざるを得ませんでしたので2年ぶりの報告会ということになります。令和2年度の実習実施についても、期間中に病院および福祉施設等でのクラスター発生事例もありながら、受け入れ施設にはご尽力をいただき、多大な困難の中で実施していただいたことに感謝の気持ちしかありません。

さて、給食経営管理論の実習については学生10グループ中7グループが遠隔実習となり、臨床栄養学実習も3機関では遠隔実習となりました。現場での体験ができなかったことは残念なことでしたが、実習課題が学生に課せられ、学生も困難な中での努力がよく伺える実習報告をまとめることができたことは教員としても救いでした。例年であれば実習受け入れ施設でご指導いただいた先生方も参加されて講評をいただいていたのですが、今回はそれもできませんでした。報告会には3年生諸君も参加して発表に対して活発な質疑がなされ、3年生にとっては来年1月からの実習に向けてある程度のイメージを得ることになったと思われます。

4年生にとっては、カリキュラムの中で最重要と位置付けられる実習を無事に終了したことは今後に向けた大きな自信になったと思います。臨地実習実施にご尽力いただいた学外の関係各位に改めて感謝するとともに、4年生の残りの学生生活がより一層充実したものとなるように全員一丸となって努力してまいります。



報告会のプログラム

コロナ禍における病院での臨床実習

保健衛生学部 理学療法学科 4年 佐藤 亜紀・福田 乃愛

理学療法学科4年生の総合臨床実習は、本来前期に前半8週間、後半7週間の計15週間、病院にて実習を受けるはずでした。しかし、新型コロナウイルスの影響により、後半の実習期間はワクチン接種の影響もあり、4週間となりました。また、実習が始まって何週間かは見学のみという制限がある場合があり、患者さんに触れる機会が少なくなってしまう学生や検査・測定を自分で行わず、担当の先生が検査・測定した計測値を教えてもらうのみになってしまう学生もいました。

病院では、感染症対策が徹底されており、自分が感染源とならないようにしなければならぬと強く感じました。そのため、手洗い・アルコール消毒・実習2週間前からの行動制限など自分で行える対策は徹底し、医療の現場に立つ学生として自覚を持つようにしました。

実習では、フェイスシールドを着用する場合があります。患者さんへ声が届きづらかったり、患者さんに触れる際にフェイスシールドが当たってしまったりするため、大きな声で話すなどの配慮が必要でした。しかし、コロナ禍の実習では制限されるばかりではなく、多様な疾患を持つ患者さんのリハビリテーションを見学し、評価や治療などを経験することができました。また、何ができるのかを自ら探することが大切だと感じました。

実習を通して、患者さんの生活をよりよくするには何が必要かを考え治療を進めていくことが大切だと学ぶことができました。この経験を踏まえて、患者さんのことを一番に考えられる理学療法士になれるよう、勉学に励んでいきます。

公認心理師受験資格取得のための心理実習を開始

保健衛生学部 医療福祉学科 助手 平谷 智生

新年度を迎え、早2か月が経過しましたが、新型コロナウイルスは収束の気配を見せず、今もなお日常生活に大きな制限が課せられています。授業形態も遠隔で実施され、学生の皆さんと直接顔を合わせてお会いすることがまだまだ難しい現状にあります。

そのような状況ではありますが、6月より公認心理師受験資格取得の必須科目となっている「心理実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が始まりました。2年生が受講する「心理実習Ⅰ」と3年生が受講する「心理実習Ⅱ」では、教育・医療・福祉・司法のそれぞれの領域から講師の方に、現場での心理職の働き方や役割等について講義をしていただくことになります。領域によって心理職に求められている役割が異なるため、それぞれの領域の専門家からお話をお聞きできる大変貴重な実習となっています。4年生で受講する「心理実習Ⅲ」では附属の「こころのクリニック」や「こころの相談センター」、中学校、適応指導教室という現場で実習を受けることになります。ここでは実際にカウンセリングや心理検査を行うわけではありませんが、現場での心理職の働き方等、心理臨床の実際がどのようなものであるのかということを実験的に学んでいく機会となります。

この「心理実習」は、これから学生の皆さんが心理職を目指すために必要な第一歩であり、最も重要な根幹をなす科目の一つでもあります。そのため実習開始前に科目担当教員より実習ガイダンスを実施し、決められたルール等を守るように厳しく指導しています。そのように指導することで心理職を目指す学生であるという自覚を持ってもらい、より実りのある実習となることを目指しています。

＜臨床心理学専攻＞

新任教職員のご紹介



保健衛生学部 医療栄養学科 助手 川 口 ふみ子

本年5月から医療栄養学科管理栄養学専攻の助手に着任しました。大学卒業後、数年は病院の管理栄養士として働いていました。病院での経験は豊富ではありませんが、少しでも学生の皆さんのお役に立てればと思っています。学生とともに学ぶ気持ちを忘れずに、常に前向きに助手としての仕事に従事していきたいと思いますので、ご指導の程よろしくお願いいたします。



保健衛生学部 医療栄養学科 助手 野々田 千 紘

本年6月より、医療栄養学科管理栄養学専攻に助手として着任いたしました。これまでは調剤薬局で管理栄養士として働いておりました。そこでは、糖尿病の患者様への栄養指導や地域の方への1次予防のための活動をしていました。それらの経験で学んだことを学生の皆さんにお伝えできたらと思います。力になれるように精一杯努めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



看護学部 看護学科 助手 矢 崎 美 穂

本年7月より看護学部看護学科の助手に着任いたしました。これまでは二度の出産を経ながら10年以上病棟での看護業務を行って来ましたが、急性期から慢性期まで、幅広い領域でのケアに携わってきた経験を活かして、皆様のサポートが出来るように努力したいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



法人事務局長 鈴 木 秀 幸

本年5月より、法人事務局長として着任いたしました。私は、大学を卒業してからこれまで終始一貫銀行員としてキャリアを積み重ねてきました。大学という全く未知の世界に飛び込むことになりましたが、それまでの経験等も活かし新しい風を呼び込み、本学の更なる発展に寄与できるよう尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



法人事務局 管財課 担当課長 辻 井 悦 生

昨年7月より法人事務局管財課でお世話になっています辻井と申します。前職は建物関係（建物設備設計、建物劣化診断、維持管理等）の業務を実施していました。施設管理担当として建物スキルを生かし、学生の皆様をはじめ教職員全員が快適で過ごしやすい建物環境の整備構築に向けて取り組み、大学の発展に貢献することを目指したいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



大学事務局 教務課 麻 生 佑 来

本年7月より本学に入職しました教務課の麻生と申します。前職では、千葉県の看護大学にて事務職員として勤めておりました。この度、医療系総合大学で働かせて頂けることとなり、これまでの経験から貢献できるように精進するとともに、一から学ばせて頂く姿勢を肝に銘じて、日々の業務に邁進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



大学事務局 学生課 藤 田 美 帆

7月より大学事務局学生課に配属となりました藤田美帆です。前職でも看護系大学の事務として働いておりました。前職での経験を活かしながら、学生の皆さんが生き生きと学生生活を送れるよう、学生に寄り添ったサポートを行いたいと考えています。早く本学の一員として戦力となれるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



大学事務局 白子事務部 鈴 木 久 美 子

7月から白子事務部に着任致しました。6月末まで三重大学・医学部長および病院長秘書として勤務しておりました。向上心と好奇心を失わず、本学に寄与できるよう努めます。白子キャンパスの緑と灰色のコントラストは、私を事務所まで歩く数分間で天空の城ラピュタ気分させる程、美しいです。戦争当時、ここが飛行離着陸場所であったと伺い、その重厚さに納得です。更には薬草園もあり、ハーブ・薬膳・Tea好きにはたまりません。

陶芸家の熊本栄司氏を招いた基礎作業学実習「陶芸」を実施

保健衛生学部リハビリテーション学科 助教 山本 泰雄

作業療法学専攻の必修科目である基礎作業学実習では、作業活動の基本的知識や技法を習得するとともに、治療的意味について学びます。今回、作業活動「陶芸」について、使用する道具や活動の特性、作業遂行に必要な能力や工程についてより深く理解するために、光風窯陶芸倶楽部の熊本栄司氏を講師としてお招きし2年生を対象に実習を行いました。

熊本氏は、陶芸倶楽部や陶芸研究所を開設し様々な陶芸を制作しており、会社、自治会など各種団体を対象に陶芸体験や陶芸講座を行うなど、指導経験の豊富な陶芸家です。また、桜の森病院の陶壁も制作されています。

授業の前半は陶芸の歴史や種類、成形の方法、使用する道具について熊本氏による講義、後半は学生が粘土成形を体験し指導を受けました。一週間粘土を乾燥させ、基礎作業学実習室の電気窯を使用し、約8時間の素焼き、釉掛け、12時間の本焼きを経て作品を完成させ



ました。

なかには焼成後、割れてしまった作品もありましたが、体験した学生のレポートには、「成形時には手指の巧緻性が必要になる」「粘土をこねる際は無心になれてストレス解消になる」「完成した際の達成感が得られる」などの考察や感想が記載されていました。学生は身をもって作業活動「陶芸」に必要な能力や作業療法での治療的意味を考えられ、学びを深める貴重な経験になったと思います。熊本さま、ありがとうございました。



2021年度教育支援の会「総会」の審議結果報告

本年度の総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年度と同様総会に代わって役員会（書面決議）で審議を行った結果、以下の審議事項は全員一致で議決されましたことをご報告致します。

＜議 案＞

議案1 2021年度新委員

議案2 2020年度事業及び収支決算報告について

議案3 2021年度事業計画及び予算（案）について

また、10月3日（日）には、「保護者個別懇談会」を予定しております。

新型コロナウイルス感染症の拡大が1日でも早く収束し、会員の皆様と再会できることを願っております。

＜教育支援の会事務局・学生課＞

2021（令和3）年度教育支援の会 会長 酒井 貴規

会員の皆さま初めまして。平素は教育支援の会の活動にご理解とご協力、ご支援をいただきありがとうございます。

昨年度に引き続き本年度もコロナ禍における感染拡大防止のため、対面での総会を中止させていただくこととなりました。大学の参観と会員相互の意見交換の場がご提供できず、とても残念に思います。

さて、本会は学生一人ひとりが一生の思い出の場として心に残せられるようなスクールライフを大学が提供できるよう、陰ながら支援することを目的として活動することが本会の使命だと私は思っております。将来、学生の皆さんが巣立ち社会に出て、医療人・福祉人のスペシャリストとして活躍する中で、誰もが大学の卒業生であることを誇りに思う「学校愛」を持ち続けていただけるような、愛があふれる素晴らしい大学であってほしいと私は願っております。

まだまだコロナ禍は終わりが見えませんが、皆さまも感染予防対策をしっかりといただき、1日も早く「脱コロナ」の平穏な日常生活を取り戻す日を迎えられるよう、一人ひとりが思いやりを持って行動しましょう。

今後とも本会へのより一層のご協力をお願い申し上げます。

教育支援の会 2020年度収支決算報告書

(自) 2020年4月1日～(至) 2021年3月31日

(単位: 円)

収入	繰越金	前年度繰越金	53,548,924	内 訳	
		前年度未払金	0		
	会費収入	新入生 (4年制)	28,480,000	薬学科以外の8学科 577名分	23,080,000
		新入生 (6年制)		薬学科90名分	5,400,000
		編入生	0	編入生	0
	利息	利息	853	定期預金利息	853
合計 (A)			82,029,777		

(単位: 円)

		今 年 度 予 算			決 算 額	予算－決算		
		科 目	金 額	内 訳			金 額	
支 出	学生生活指導費	学友会行事協力費	3,306,150	新入生歓迎会助成	106,150	106,150	0	
				謝恩会助成	3,200,000	3,200,000	0	
			課外活動助成費	2,000,000	クラブ・サークル活動助成	2,000,000	2,000,000	0
			大学行事協力費	3,290,000	大学祭助成	3,290,000	3,290,000	0
				大学周辺清掃時飲物代助成	0	0	0	
			学生指導補助費	3,000,000	新入生オリエンテーション	0	143,440	▲ 143,440
				学生相談室関連補助	3,000,000	3,000,000	0	
			学生生活広報費	1,000,000	大学広報費作成補助	1,000,000	1,000,000	0
			実習検査助成費	2,000,000	実習用抗体検査費用助成	2,000,000	2,000,000	0
			施設設備充実費	900,000	設備・備品助成	900,000	900,000	0
		コロナ対策協力費	6,500,000	コロナ対策助成	6,500,000	6,500,000	0	
		小 計	21,996,150		22,139,590	▲ 143,440		
	就職対策補助費	就職対策補助	4,000,000	就職指導関連補助	4,000,000	4,148,655	▲ 148,655	
		小 計	4,000,000		4,148,655	▲ 148,655		
	教育研究補助費		600,000	書籍購入補助	600,000	600,000	0	
		小 計	600,000		600,000	0		
	運営費		1,440,266	総会・学科別懇談会諸費用	117,640	117,640	0	
		保護者懇談会諸費用		1,011,780	1,011,780	0		
		小 計	1,440,266	役員会諸費用	310,846	310,846	0	
	予備費		173,584		173,584	134,364	39,220	
小 計		173,584		134,364	39,220			
	予算額計	28,210,000	決算額合計 (B)	28,462,875	▲ 252,875			

未払金 (2020年度経費分) ※ (C) 0

2021年度への繰越金 (A) - (B) + (C) 53,566,902円 (2021年3月31日預金残高)

教育支援の会 2021年度収支予算

(自) 2021年4月1日～(至) 2022年3月31日

(単位: 円)

収入	繰越金	前年度繰越金	53,566,902	内 訳	
		前年度未払金	0		
	現金繰越金	前年度現金繰越金	0		
	会費収入	新入生 (4年制)	28,120,000	薬学部以外の8学科 586名分	23,440,000
		新入生 (6年制)		薬学部 78名分	4,680,000
		編入生	20,000	3年次1名	20,000
	利息	利息	1,000	定期預金利息	1,000
合計 (A)			81,707,902		

2021年4月1日現在 学生数 2,869名 2021年度予算額目安 28,690,000 (学生数×10,000円)

(単位: 円)

	科 目	金 額	今 年 度 予 算		2019年度実績	備 考
			内 訳	金 額		
支出	学生生活指導費	学友会行事協力費	4,200,000	※1 新入生歓迎会助成	1,000,000	歓迎会・クラブ紹介・パンフレット等作成
		課外活動助成費	2,000,000	謝恩会助成	3,200,000	謝恩会
		大学行事協力費	3,330,000	クラブ・サークル活動助成	2,000,000	活動支援
		学生指導補助費	3,800,000	大学祭助成	3,290,000	学科発表の増数(学科の改組に伴う専攻新設)
				大学周辺清掃助成	40,000	年2回実施
		学生生活広報費	1,000,000	※2 新入生オリエンテーション助成	800,000	新入生へのメッセージ冊子配布・他
		実習検査助成費	2,000,000	学生相談室関連助成	3,000,000	学生相談室における学生への対応の充実
		施設設備充実費	900,000	大学広報費作成助成	1,000,000	広報誌の制作・郵送
		コロナ対策協力費	0	実習用抗体検査費用助成	2,000,000	実施業者との調整
				設備・備品助成	900,000	寄贈備品
	就職対策補助費	就職対策補助費	6,700,000	コロナ対策助成	0	協力金
				就職指導関連助成	6,700,000	ガイダンス・講座・説明会等の支援
	教育研究補助費		600,000	書籍購入助成	600,000	学生図書購入助成
				総会・学科別説明会諸費用	700,000	総会・学科別説明会開催(6月9日)
	運営費		2,580,000	保護者個別懇談会諸費用	1,700,000	保護者個別懇談会開催(10月6日)
				役員会諸費用	180,000	役員会(2月2日)開催、等
	予備費		1,580,000		1,580,000	学生の学会での発表に関する交通費等助成、クラブの全国レベルの大会出場助成、学生への香典、消耗品等、予算項目外の支出に対応。
合計		予算額計 (B)	28,690,000		28,462,875	

次年度繰越予定金額 (A) - (B) 53,017,902

※1・2 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催は延期、もしくは規模を縮小する方向で検討しております。

学校法人鈴鹿医療科学大学 令和2年度決算報告

●資金収支計算書 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位: 円)

収入の部	金額	支出の部	金額
学生生徒等納付金収入	4,313,049,000	人件費支出	2,832,739,195
手数料収入	70,052,392	教育研究経費支出	1,097,937,791
寄付金収入	30,875,178	管理経費支出	357,162,856
補助金収入	731,750,831	借入金等利息支出	29,130,315
資産売却収入	111,502,615	借入金等返済支出	241,640,000
付随事業・収益事業収入	58,304,470	施設関係支出	1,620,295,358
受取利息・配当金収入	60,946,624	設備関係支出	393,455,540
雑収入	161,320,626	資産運用支出	156,081,329
借入金等収入	800,000,000	その他の支出	220,871,488
前受金収入	847,720,700	資金支出調整勘定	△ 275,955,086
その他の収入	149,868,961	翌年度繰越支払資金	3,690,354,891
資金収入調整勘定	△ 990,595,567	支出の部合計	10,363,713,677
前年度繰越支払資金	4,018,917,847		
収入の部合計	10,363,713,677		

【資金収支計算書・活動区分資金収支計算書の概要】

資金収支計算書は、会計年度中に行われた資金の動きを表したもので、活動区分資金収支計算書は、その資金の動きを活動区分ごとに集計したものです。

当年度は、令和3年4月に開院する大学附属桜の森病院の建物や備品を中心に、約18億円の支出をしています。また、病院の建設資金として、8億円の借入金を調達しています。

●活動区分資金収支計算書 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位: 円)

科 目	金額
教育活動資金収入計	5,277,694,497
教育活動資金支出計	4,287,839,842
差引	989,854,655
調整勘定等	52,995,314
教育活動資金収支差額	1,042,849,969
科 目	金額
施設整備等活動資金収入計	87,658,000
施設整備等活動資金支出計	2,013,750,898
差引	△ 1,926,092,898
調整勘定等	△ 26,155,738
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,952,248,636
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 909,398,667
科 目	金額
その他の活動資金収入計	1,002,607,902
その他の活動資金支出計	426,851,644
差引	575,756,258
調整勘定等	5,079,453
その他の活動資金収支差額	580,835,711
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	△ 328,562,956
前年度繰越支払資金	4,018,917,847
翌年度繰越支払資金	3,690,354,891

●事業活動収支計算書 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

科 目	金額
学生生徒等納付金	4,313,049,000
手数料	70,052,392
寄付金	30,875,178
経常費等補助金	644,092,831
付随事業収入	58,304,470
雑収入	161,320,626
教育活動収入計	5,277,694,497
科 目	金額
人件費	2,873,004,677
教育研究経費	1,730,550,841
管理経費	423,680,191
徴収不能額等	0
教育活動支出計	5,027,235,709
教育活動収支差額	250,458,788
科 目	金額
受取利息・配当金	60,946,624
その他の教育活動外収入	0
教育活動外収入計	60,946,624
科 目	金額
借入金等利息	29,130,315
その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	29,130,315
教育活動収支差額	31,816,309
経常収支差額	282,275,097

●貸借対照表 令和3年3月31日現在

資産の部	(単位: 円)
固定資産	17,599,039,931
有形固定資産	17,288,631,598
特定資産	300,000,000
その他の固定資産	10,408,333
流動資産	5,533,718,520
資産の部 合計	23,132,758,451
負債の部	
固定負債	3,521,562,267
流動負債	1,568,408,526
負債の部 合計	5,089,970,793
純資産の部	
基本金	25,548,047,313
繰越収支差額	△ 7,505,259,655
純資産の部 合計	18,042,787,658
負債及び純資産の部 合計	23,132,758,451

●財産目録 令和3年3月31日現在

(単位: 円)

資産総額	23,132,758,451
基本財産	17,299,039,931
運用財産	5,833,718,520
負債総額	5,089,970,793
正味財産	18,042,787,658

【貸借対照表と財産目録の概要】

貸借対照表は、資産や負債の状況を表すもので、財産目録はその内訳を表すものです。

当年度は、総資産額は大学附属桜の森病院の建物・備品の取得により増加しており、借入を行っているため、総負債額も増加しています。その結果、正味財産 (総資産－総負債) は、3.5億円増加しています。

学生相談室通信

学生相談室長・保健衛生学部 医療福祉学科 准教授 綾野 眞理

「自己実現傾向」を Activate する

「自己実現傾向」という言葉を知っていますか？この言葉はカウンセリングの創始者カール・ロジャーズの理論を説明する上で欠かせないものです。その意味を簡単に説明すると、「よりよく生き、成長・発展していこうとする自然な傾向」というところでしょうか。「自分にもあるといいのに…でも、ないな」とつぶやいたあなた、大丈夫です。ロジャーズは、「誰でも、1人残らず持っている」とも言っています。では、なぜ、「自分にはないな」と感じてしまうのか。それは、その人の置かれている状況、環境やストレスの影響を受けて、自己実現傾向がうまく機能しない状態、本来の力が発揮できない状態に陥っているからなのです。ですから、このようなマイナス要因を取り除くことができればうまくいくわけです。ただ、そうは言っても自分の置かれた状況を変えるのはそう簡単ではありません。周りの誰かの影響を受けていたり、組織や社会の問題が影響している場合もあるからです。でも、諦めるのは少し早いです。ロジャーズは、「誰でも安心できる場があって、そこで共感され、受容されていると感じることができれば、その力を発揮できるようになる」として、カウンセリングが有効な方法だと述べています。学生相談室は、あなたの自己実現傾向がうまく機能するように、安心して何でも話せる場でありたいと思っています。もちろん、必要に応じてアドバイスやサポートもします。ですが、まず、「ただ、話しに」来てみませんか？あなたの「自己実現傾向」を Activate するために。



おじさんの
独り言

「ぼったくり男爵に座布団0枚」

この文章が「SUMS News」に載る頃は、パンデミックのため1年遅れた東京オリンピック2020が開催している筈だ。それにしても、この五輪は準備段階から問題続出だったね。新国立競技場のデザインやり直し、盗作疑惑によるエンブレムの変更、オリンピック招致を巡る贈収賄疑惑によるJOC会長の退任、女性蔑視発言による大会組織委員長の辞任などなど、その上、新型コロナがまん延中の世界各国から続々と選手や大会、マスコミ関係者等が大挙して入国する。果たして安全は確保できるのだろうか、大会は盛り上がるのだろうか、おじさんはちょっと心配してる。

このパンデミックの最中じゃない、最中、東京オリンピックを開催するのかもしれないのか、するなら観客をどうするのか、などなど日本中で議論が巻き起こった。でも、この議論を通じて、おじさんは、IOC（国際オリンピック委員会）の何たるかが良く分かったよ。国際なんとか委員会と言え、国連の関連組織か公的機関と勘違いしちゃうよね。実はおじさんも漠然とそんな風に思ってたんだ。だけど、実態は単なる非政府のスポーツ組織だというんだよね。

その単なるスポーツ組織、IOCのトーマス・バッハ会長を、5月初旬米ワシントンポスト紙が、「ぼ

ったくり男爵」と揶揄したんだとか。記事の内容は、自分たちのカネ儲けのために、新型コロナ禍でも五輪開催を日本に強要するバッハ会長を「地方行脚で庶民の小麦を食べ尽くす王族」に例え、「開催国を食物にするIOCの悪しき姿勢」を痛烈に批判したと言うんだ。

このコラムで注目を集めた「ぼったくり男爵」は、元の記事では「Baron Von Ripper-off」と書かれていたらしい。これは「Baron Von Ripper（フォン・リッパ男爵）」という実在したオーストリアの画家の名前のパロディーで、英語で「騙し取る」「剥ぎ取る」の「Rip-off」をもじって、「Baron Von Ripper-off」と洒落たと言う訳だ。実に上手い。「座布団3枚」と言いたいところだけど、「Ripper-off」を「ぼったくり」と訳したのも実に上手い。こっちも「座布団3枚」かな。ちなみに、「ぼったくる」とは「暴利たくる」が変化したものと言うんだけど、ホントかな？

とにかく、オリンピックが「Ripper-off」じゃあ困るんだよね。ワシントンポストの言い分が正しいとするなら、IOCには是非とも、クーベルタン男爵が意図した精神に立ち戻ってもらわなきゃね。オリンピックは、金を追求するもんだけど、金を追求するもんじゃないもんね。



本学では病院等で臨床実習を行う学生を対象に 附属桜の森病院で新型コロナワクチン接種を実施しました

大学事務局長 村田 尚久

新型コロナワクチンの接種は医療従事者等からすでに始まっていますが、本学では病院や施設において臨床実習を行う学生及び臨床実習指導に関わる教職員は医療従事者等とみなされ、附属桜の森病院においてワクチンの接種を行っています。

接種体制は、附属桜の森病院長をはじめ、看護師、薬剤師のスタッフの協力のもと、本学教員のうち、医師、看護師、薬剤師の資格を持つ臨床経験豊富なスタッフがシフトを組んで、学生が安全かつ安心して接種できる環境を整えたうえで取り組んでいます。接種後の副反応について



ワクチン接種前の医師による問診

も、学科の教員と本学の健康管理センターが連携して対象学生のフォローができる体制を整えています。

学生はこのような体制の中で、2回の接種後一定期間において、病院・施設等の実習に安心して臨むことができます。さらに、実習病院等から学生の検査を求められる場合には、本学健康管理センターにおいて、抗原検査を受ける体制も整えています。医療従事者等のワクチン接種は、5月10日から7月21日まで順次行いました。



実習に臨む学生へのワクチン接種

行事予定

2021年8月～11月

8月2日(月)～5日(木) 前期・夏期定期試験と解説
 6日(金) 夏のオープンキャンパス(第3回)
 7日(土) 夏のオープンキャンパス(第4回)
 7日(土) 夏季休業(～9月7日)
 夏季一斉休暇(～8月17日)
 23日(月)～27日(金) 前期・夏期 追・再試験
 9月1日(水) FD・SD講演会
 8日(水) 後期ガイダンス
 9日(木) 後期授業開始
 20日(月・祝) 月曜授業日・総合型選抜1期
 25日(土) 大学院1期入試
 10月9日(土) 補講日
 23日(土) 総合型選抜2期・編入学入試第1回
 25日(月) 補講日(とこわか大会)
 29日(金) 秋期定期試験と解説

11月2日(火)・4日(木) 秋期定期試験と解説
 5日(金) 大学祭準備(休講)
 6日(土)・7日(日) 大学祭
 8日(月) 大学祭片付け(休講)
 10日(水) 秋期定期試験と解説
 13日(土) 補講日
 15日(月) 秋期定期試験と解説
 18日(木) 学校推薦型選抜(推薦)
 千代崎:休講 白子:補講日
 19日(金) 学校推薦型選抜(推薦)
 千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講
 27日(土) 補講日

※上記予定は変更になる場合があります。サマスポおよびホームページで最新情報を確認してください。